

科学技術振興調整費プログラム 「女性研究者支援モデル育成」

——日本女子大学における
「女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクト」の取り組み——

小舘香椎子

科学技術立国日本が少子・高齢化の中で国際競争力の維持・強化を図っていくためには、科学技術を支える理系人材の量・質共の確保及び男女共同参画社会の実現などによる女性研究者をはじめとする多様な研究者がその能力を最大限発揮し、活躍するための環境を整えていくことが不可欠である。しかし、我が国の現状を見ると、研究者に占める女性の割合が欧米諸国と比べて低く、その最も大きな理由として出産・育児により研究の両立が難しいことが指摘されている。文部科学省では2006年度から科学技術振興調整費による新規課題として「女性研究者支援モデル育成」を掲げ、大学や独立行政法人を対象として提案の公募が行われた。これに対して36件の応募があり、そのうち本学を含む10の機関が採択され、取組みを進めている。

本稿では、2006年7月から開始された日本女子大学における「女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクト」の概要と9か月間の活動について紹介する。

プロジェクト概要

本プロジェクトは「出産・育児と研究活動の両立支援」、「女性研究者の活躍の場の拡大」を目的としている。その中核となる取組みは次の3本柱からなる(図1)。

- ① 出産・育児休暇中の研究者にサポート役としての研究助手を付け、ネットワークを利用した実験装置の遠隔操作や画像伝送などの様々な支援により、研究活動の低下を最小限にとどめること
- ② 電子情報(eポートフォリオ)としてのキャリアの蓄積を活用したマルチキャリアパスのための支援
- ③ 中高生などに対する理科教室や研究室公開によるロールモデルの提示など、次世代研究者への教育・育成を含む企画及び調査

本プロジェクトの事務局としてプロジェクト推進室(推進室長:遠山嘉一客員教授)を開設し、下記の3部門を設け、活動を開始した。

本年度の活動

(1) ユビキタスリサーチ支援部門

ユビキタスリサーチ(ユリサーチ)とは、「いつでもどこにいても研究活動を継続する」という新しい概念である。支援を受ける育児中の研究者を「ユリサーチャー」と呼び、研究者像の新しいモデルとして提示することを目指す。2006年度は、まずユリサーチャーを公募し、8月から支援を開始した。現在のユリサーチャーは8名で、これを支援する研究助手も公募し、研究・業務内容のマッチング後に配置し、研究活動を円滑に進めるための支援が行われている。研究助手は、ユリサーチャーの遠隔指導により研究をサポートする要員であり、同時に研究指導を受けることによりキャリアアップの機会を得ている。また、自宅に居ながらにして研究活動を継続するために、研究助手への指示やディスカッション、研究室ゼミに参加するための画像伝送テレビ会議システムを導入した(図2)。更に遠隔操作のために、電子顕微鏡のデジタルデータ取得・転送用モジュールの導入及び望遠鏡のリモートコントロール装置を構築し、実証実験を開始している。ユリサーチャーからは、これまで継続的な実験データの取得が可能となる上、育児中自宅から研究助手や学生に遠隔で指示や議論ができ、大変有効であるなどの感想が寄せられている。

(2) ヒューマンリソース部門

ヒューマンリソース部門では、多様なキャリアパスの人材を受け入れ、多様なキャリアパスで送り出すための支援を行う。これを実現するために、キャリアアップや就職時に必要となる研究者の経歴、スキル、業績などをeポートフォリオに蓄積し、活用するシステムの構築や研究的ポストなどの就職先の拡大に向けての支援活動を行っている。今年度は、卒業生との懇談会を第2回シン

小舘香椎子 正員 日本女子大学理学部数物科学科
E-mail: kkodate@fc.jwu.ac.jp
Kashiko KODATE, Member (Faculty of Science, Japan Women's University, Tokyo, 112-8681 Japan),
電子情報通信学会誌 Vol.90 No.6 pp.500-501 2007年6月

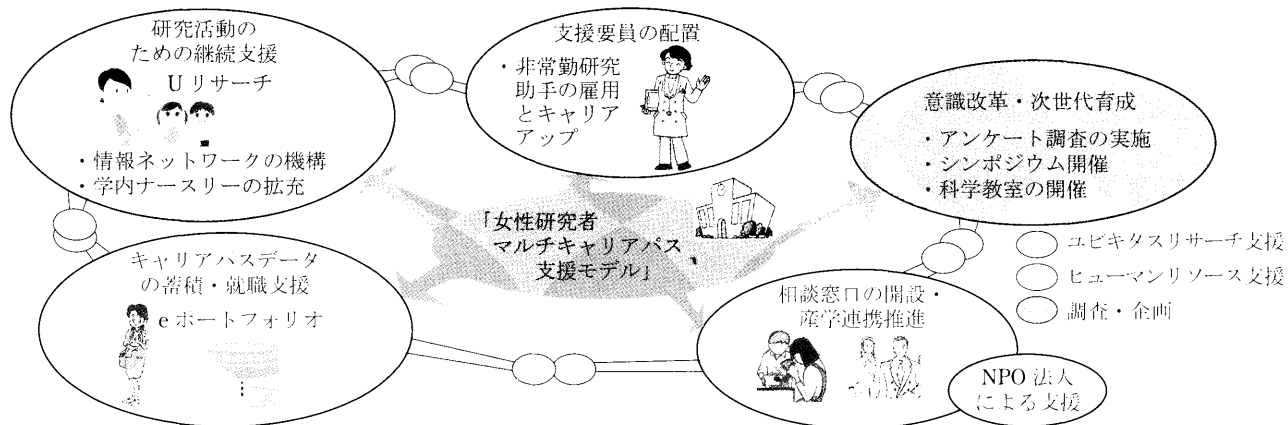


図1 プロジェクトの取組み



図2 テレビ会議システムを用いたU-リサーチャーとの研究ゼミ



図3 電子情報通信学会との共催で開かれた科学教室

ポジウム終了後に実施し、就職相談やキャリアパスについての助言を得る機会を設けた。また、草の根eラーニングのポータルサイトを活用した就職・再就職支援サービスの提供・サイエンスカフェの開催によるコミュニティ形成の促進を行った。

(3) 次世代育成のための企画・調査部門

女性研究者・技術者の交流と学生へのロールモデル提示の機会として、シンポジウム「女性と科学」を2006年7月15日と11月25日の2回開催した。第1回シンポジウムでは、特別講演の黒田玲子氏(東京大学)、大学・研究機関で働く卒業生、第2回は、特別講演を持田侑宏氏(前富士通研究所)、企業で働く卒業生をそれぞれ招き、大学・企業における現状と支援、及び研究生活と出産・育児との両立を中心とする経験談を拝聴した。

また、大学の最先端の科学を盛り込んだ中高生対象の理学部の科学教室(実験テーマ数15、参加者約200名)、子供メディアフォーラム、本学生涯学習センターと連携したインターネット子供教室(5回開催、参加者24名)、電子情報通信学会と共催の中学生を対象とした「魅力いっぱいの光の世界を体験しよう！」(参加者:生徒26名、父母24名)を開催し、指導する教員も参加者と共に楽しんだ(図3)。更に、女性研究者・技術者の実態

の把握をするため、1,800名の卒業生を対象にアンケート調査を実施した。回収は2007年5月で、この分析結果は今後のプロジェクトの活動に反映させていく。

プロジェクトは始まったばかりではあるが、2007年3月末の外部評価委員会では、支援事業として既に種々の取組みが実施されていることに対し、高い評価を頂いた。また、今年度の入試で、5女子大の理系学科の応募倍率が高くなったところにも、理系女性支援プロジェクトの影響が感じられ、関係各位にこの場を借りて感謝するものである。

今後女性研究者が活躍できる場を更に拡大し、両立支援のモデル事業を進展させていくためには、関係者に加えて理工系の学協会の会員の御支援が不可欠であり、改めて皆様の御協力・御支援をお願いするものである。

プロジェクトの詳細はホームページ(URL: <http://momi.jwu.ac.jp/~mcpweb/>)を御参照頂きたい。



小館 香椎子 (正員)

1963日本女子大・家政・家政理卒、主博(東大)、1992より日本女子大・理・教授。マイクロフティクスと光エレクトロニクスの研究に従事。2005より日本学術会議第20期会員、電子情報通信学会評議員、2007より応用物理学会副会長、本プロジェクトリーダー。